

住宅情報

木造戸建住宅の耐震診断・改修の助成制度

耐震改修を推進するため、耐震診断と耐震改修費用の一部を助成します。

●市職員の無料耐震診断

一般診断法を用いて図面のみで診断します。

※正式な診断を行い、証明するものではありません

- 対象**
- ・戸建て住宅
 - ・自己の居住の用に供するもの
 - ・S56/5/31以前に建築または着工され、原則としてS56/6/1以降に増築していないもの
 - ・在来軸組工法のもの
 - ・地上階数が2以下のもので地階を有しないもの

申込方法 耐震診断申請書に必要書類を添付し提出

●耐震診断費補助金

木造住宅の耐震診断を行う市民に対して、費用の一部を助成します。

- 補助額** 診断費用の3分の2以内(上限8万9千円)
- 対象** 在来軸組工法のもの、地上階数が2以下のもので地階を有しないものなど、条件があるので詳細はお問い合わせください

申込期限 9/30(金) ※予算額に達し次第終了

●耐震改修費等補助金

木造住宅の耐震改修などを行う市民に対し、費用の一部を助成します。

補助額 耐震改修費などにかかった費用の23%以内(上限50万円)

対象 耐震診断技術者が行った耐震診断で上部構造評点が1.0未満と診断されたものなど、条件があるので詳細はお問い合わせください

申込期限 9/30(金) ※予算額に達し次第終了

石狩市耐震改修促進計画 (令和4年2月改定)

耐震化率の目標値として、S56/5/31以前に建築または着工された住宅を「95%」、多数の方が利用する建築物を「おおむね解消」とし、計画を改定しました。



空家などの適正管理を

空家などが原因で近隣や通行人に損害を与えた場合、所有者が責任を問われることがありますので、適切な管理をお願いします。

●危険空家除却費補助金

市が危険な空家と確認した物件を、特定空家として勧告を受ける前に自発的に除却する所有者などに対して、費用の一部を助成します。

- 補助額** 除却費用の2分の1以内(上限50万円)
- 対象** 市が「石狩市特定空家等の認定基準」に基づき、特定空家等に相当する状態である危険な空家と確認した建物
- 対象者** 建物の所有者や相続人など
- 申込方法** 工事請負契約締結前に建築物調査申請書に必要書類を添付し提出
- 申込期限** 10/31(月) ※予算額に達し次第終了

土砂災害特別警戒区域内にある住宅の移転に係る助成制度

土砂災害特別警戒区域内にある既存不適格住宅に居住する所有者に対して、除却費用と移転費用の一部を補助します。

●土砂災害等危険住宅移転事業補助金

- 補助額** ・除却費用(上限97万5千円)
・移転先の建設または購入費にかかる借入金の利子相当額(上限415万円)
- 対象** 土砂災害特別警戒区域内にある建築基準法施行令第80条の3の規定に適合していない既存不適格住宅
- 対象者** 土砂災害特別警戒区域に指定された日以前から居住する既存不適格住宅の個人所有者
- 申込期限** 9/30(金) ※予算額に達し次第終了

沖縄から 箱いっぱいの軽石

沖縄からダンボール箱にいっぱいの軽石が届きました。

昨年8月、小笠原諸島南部の海底火山「福徳岡ノ場」が大噴火を起こしました。そのとき噴出した膨大な量の軽石は、1カ月間海面を漂って1300km離れた南西諸島まで到達し、島々の海岸や港を埋め尽くしたのです。本来は真っ白なビーチが黒い軽石でびっしりと覆われた様子は、テレビなどでご覧になったと思います。

ところで軽石は、どうして浮くのでしょうか？ 軽石をよく見ると、細かい穴が無数に空いていることがわかります。成分は普通の火山岩と変わりませんが、スポンジのように穴だらけでスカスカのため空気を含み、水に浮くほど軽いのです。この無数の穴は、サイダーの泡が凍ったものといえはイメージできるでしょうか。

火山の噴火を引き起こすのは、地下でどろどろに融解した熱いマグマ。その中には大量の水蒸気が溶け込んでいます。温度は全然違います。サイダーやビールに二酸化炭素が溶け込んでいるのと同じ状態です。サイダーの栓を開けると、圧力が下がることよって、溶けていた二酸化炭素がブクブクと泡になって噴き出します。マグマが地下から上昇してくる時

も、同じことが起きるのです。マグマが水蒸気でサイダーのように泡立ちながら地上に噴き出し、すぐに冷えて固まった―それが軽石なのです。

箱いっぱいの軽石は、沖縄県北谷町の学芸員・藤彰矩さんから送っていただきました。遠く離れた博物館同士で標本を交換することはよくあります。石狩浜にも軽石は漂着しますが、ほとんどは豊平川・石狩川から流れてきたもの。約4万年前の支笏湖周辺での噴火によるもので、福徳岡ノ場の軽石とは色も形も違いうためです。このように、遠く離れた地域の標本と比べて初めて、自分の地域の特徴が見えるのです。

沖縄の大量の軽石は漁業や海上交通、観光などに打撃を与え、現地の人々にとっては災難でした。しかし一方で、火山噴火や海流といった地球の活動や、地域の個性も教えてくれる役にも立つのです。

(志賀健司)



2021/8/13に始まった福徳岡ノ場の大噴火。噴煙は成層圏に達した
(撮影/海上保安庁)



沖縄から送られてきた大量の軽石



穴の空いた軽石は、サイダーの泡が凍ったようなもの



8月に噴出した軽石は、10月には南西諸島に到達。その1カ月後には伊豆諸島などにも流れ着いた



沖縄本島に漂着した軽石の1つ。肉眼では見えないものも含めて、無数の穴が空いている



石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。